

記載例

(特定施設)

様式第1 (第3条関係) (表面)

特定施設 (~~有害物質貯蔵指定施設~~) 設置 (~~使用、変更~~) 届出書

平成〇〇年〇〇月〇〇日

茨城県知事 殿

茨城県〇〇市〇〇1-2-3
届出者 〇〇〇〇株式会社
代表取締役 〇〇 〇〇

印

水質汚濁防止法第5条第1項、~~第2項又は第3項~~ (第6条第1項又は第2項、~~第7条~~) の規定により、特定施設 (~~有害物質貯蔵指定施設~~) について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称		〇〇〇〇株式会社 △△事業所	※整理番号	
工場又は事業場の所在地		〒□□□-□□□□ △△市△△4-5-6	※受理年月日	年 月 日
第5条第1項関係	特定施設の種類	65 酸又はアルカリによる 表面処理施設 66 電気めっき施設	※施設番号	
	有害物質使用特定施設の該当の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	※審査結果	
	△特定施設の構造	別紙1のとおり。	※備考	
	△特定施設の設備 (有害物質使用特定施設の場合に限る。)	別紙1の2のとおり。		
	△特定施設の使用の方法	別紙2のとおり。		
	△汚水等の処理の方法	別紙3のとおり。		
	△排出水の汚染状態及び量	別紙4のとおり。		
	△排出水の排水系統別の汚染状態及び量	別紙5のとおり。		
△排出水に係る用水及び排水の系統	別紙6のとおり。			
第5条第2項関係	有害物質使用特定施設の種類			
	△有害物質使用特定施設の構造	別紙7のとおり。		
	△有害物質使用特定施設の使用の方法	別紙8のとおり。		
	△汚水等の処理の方法	別紙9のとおり。		
	△特定地下浸透水の浸透の方法	別紙10のとおり。		
	△特定地下浸透水に係る用水及び排水の系統	別紙11のとおり。		

様式第1 (裏面)

第5条第3項関係	有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別	<input type="checkbox"/> 有害物質使用特定施設 <input type="checkbox"/> 有害物質貯蔵指定施設		
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の構造	別紙12のとおり。		
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の設備	別紙13のとおり。		
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の使用の方法	別紙14のとおり。		
	△施設において製造され、使用され、若しくは処理される有害物質に係る用水及び排水の系統又は施設において貯蔵される有害物質に係る搬入及び搬出の系統	別紙15のとおり。		

- 備考
- 1 特定施設の種類の欄及び有害物質使用特定施設の種類の欄には、令別表第一に掲げる番号及び名称（指定地域特定施設にあつては、名称）を記載すること。
 - 2 有害物質使用特定施設の該当の有無の欄には、該当するものにレ印を記入すること。なお、有害物質使用特定施設に該当しない場合には、別紙1の2を提出することを要しない。
 - 3 有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別の欄には、該当する施設にレ印を記入すること。
 - 4 △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
 - 5 ※印の欄には、記載しないこと。
 - 6 排出水の排水系統別の汚染状態及び量については、指定地域内の工場又は事業場に係る届出書に限って欄を設けること。
 - 7 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
 - 8 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本工業規格A4とすること。
 - 9 氏名（法人にあつてはその代表者の氏名）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあつてはその代表者）が署名することができる。

有害物質使用特定施設の場合、別紙2（使用の方法）については、以下の点に留意すること

届出様式においては義務とはなっていないが、管理要領、点検頻度、同等以上の点検の内容などについて、必要に応じて添付することが望ましい。

その他参考となるべき事項の欄には、有害物質使用特定施設の場合において、有害物質の製造、処理を行っている場合には、製造、処理を行っている有害物質の種類を記載することが望ましい（届出がなされた特定施設のうち、どの施設が有害物質使用特定施設になるかを把握するため）。なお、有害物質を使用している場合、原材料の欄に記載される場合には、改めて記載する必要はないが、記載されていない場合にはその他参考となるべき事項の欄に記載する。

特定施設の構造

工場又は事業場における施設番号	No101	No207
特定施設番号及び名称	65 酸又はアルカリによる表面処理施設	66 電気めっき施設
型式	化成被膜施設 ((株)〇〇社製 GDU-Z3)	めっき槽 ((株)〇〇社製 GLP007)
構造	ステンレス製、反応槽内はフラン樹脂により被覆 (別添資料1-1 構造図参照)	鉄製、内部は塩化ビニルにより被覆 (別添資料2-1 構造図参照)
主要寸法	装置の外形寸法 1.5m×2m×1.5m (別添資料1-1 構造図参照)	1.5m×8m×1.5m (別添資料2-1 構造図参照)
能力	被膜鉄板製造量 1,000個/日	鉄板 2,000個/日
配置	製造棟1階 (別添資料1-2 配置図参照)	B棟1階 (別添資料2-2 配置図参照)
設置年月日	年 月 日	年 月 日
工事着手予定年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	平成〇〇年〇〇月〇〇日
工事完成予定年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	平成〇〇年〇〇月〇〇日
使用開始予定年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	平成〇〇年〇〇月〇〇日
その他参考となるべき事項	床面は厚さ30cmのコンクリートで、表面は耐酸性のためフラン樹脂により被膜。 防液堤容量は0.5m ³ (施設で使用する硝酸溶液は0.3m ³)	床面は厚さ30cmのコンクリートで、表面耐酸性のためフラン樹脂により被膜。 防液堤容量は2.5m ³ (施設で使用する溶液総量は2m ³)

- 備考 1 配置の欄には、当該特定施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置を記載すること。
- 2 その他参考となるべき事項の欄には、当該特定施設が有害物質使用特定施設に該当する場合には、施設の床面及び周囲の構造等を記載すること。

有害物質使用特定施設に該当する場合には、施設の床面及び周囲の構造等を記載すること。
床下に目視可能な空間がある場合にはその旨を記載すること。

特定施設の設備

工場又は事業場における施設番号	No101	No207
特定施設番号及び名称	65 酸又はアルカリによる表面処理施設	66 電気めっき施設
設備	地上配管	排水溝
構造	ステンレス製 (外装は腐食防止のためポリエチレン樹脂で被覆)	コンクリート製 厚さ10cm フラン樹脂により被覆
主要寸法	口径50mm×長さ20m	幅20cm×深さ20cm×距離10m
配置	製造棟1階 (別添資料1-2 配置図参照)	B棟1階 (別添資料2-2 配置図参照)
設置年月日	年 月 日	年 月 日
工事着手予定年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	平成〇〇年〇〇月〇〇日
工事完成予定年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	平成〇〇年〇〇月〇〇日
使用開始予定年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	平成〇〇年〇〇月〇〇日
その他参考となるべき事項		

- 備考 1 有害物質使用特定施設に該当しない場合には、本様式を提出することを要しない。
- 2 配置の欄には、当該特定施設の設備の配置を記載すること。

「設備」の欄には、施設に付帯する配管等、排水溝等の設備の名称を記載すること
「構造」の欄には、設備の材質を記載するとともに、検知設備を有する場合にはその旨記載すること。

「主要寸法」の欄については、設備のうち、主なものについて寸法を記載すること
「配置」の欄については、建物の名称・位置等を記載するとともに、地下に設置されている場合にはその旨を明記すること。

有害物質を含む水が流れない場合には、構造等に関する基準が適用されないので、その他参考となるべき事項の欄にその旨記載すること。

特定施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号	No101		No207		
特定施設号番号及び名称	65 酸又はアルカリによる表面処理施設		66 電気めっき施設		
設置場所	製造棟 1階 (別添資料1-2 配置図参照)		B棟 1階 (別添資料2-2 配置図参照)		
操業の系統	鉄板に化成被膜処理を行う (別添資料1-3 工程図参照)		鉄板にクロムめっきを行う (別添資料2-3 工程図参照)		
使用時間間隔	10時～12時, 13時～16時		14時～16時		
1日当たりの使用時間	5時間		2時間		
使用の季節的変動	夏季の7～8月に繁忙期のため使用時間が1割程度多くなる		夏季の7～8月に繁忙期のため使用時間が1割程度多くなる		
原材料(消耗資材を含む。)の種類、使用方法及び1日当たりの使用量	①98%濃硫酸 0.5L/日 * 純水で10倍希釈して使用 ②無水加水酸 1.5kg/日 * ①に溶解させて使用		①98%濃硫酸 0.5L/日 * 純水で10倍希釈して使用 ②無水加水酸 2.5kg/日 * ①に溶解させて使用 ③シアン化カリウム 1.5kg/日 * ①に溶解させて使用		
汚水等の汚染状態	種類・項目	通常	最大	通常	最大
	pH	3.0～3.5	2.5～3.0	3.0～3.5	2.5～3.0
	シアン化合物 (mg/L)	—	—	2	5
	六価クロム (mg/L)	5	10	7	15
	クロム (mg/L)	5	10	7	15
汚水等の量 (m ³ /日)	通常	最大	通常	最大	
	5	10	3	5	
その他参考となるべき事項					

備考 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

汚水等の処理の方法

工場又は事業場における施設番号		排水処理施設							
処理施設の設置場所		別添資料3 敷地内図参照							
設置年月日		平成〇〇年〇〇月〇〇日							
工事着手予定年月日		年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日	
工事完成予定年月日		年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日	
使用開始予定年月日		年 月 日		年 月 日		年 月 日		年 月 日	
種類及び型式		(株)〇〇社製							
構造		鉄筋コンクリート(別添資料4 排水処理施設構造図参照)							
主要寸法		全体 10m×10m×3m(別添資料4参照)							
能力		100m ³ /日							
処理の方式		六価クロム(還元→凝集沈殿) シアン(アルカリ塩素法)							
処理の系統		別添資料5 処理フロー図参照							
集水及び導水の方法		工程排水を排水管及び排水溝により集水し、処理施設まで導水する。 (別添資料3参照)							
使用時間間隔		10時～18時							
1日当たりの使用時間		8時間							
使用の季節変動		夏季に稼働時間が多くなる							
消耗資材の1日当たりの用途別使用量		亜硫酸水素ナトリウム 2kg/日(クロム還元) 水酸化ナトリウム 5kg/日(凝集沈殿) PAC 20kg/日(凝集沈殿) 次亜塩素酸ナトリウム 5kg/日(シアン分解)							
汚水等の汚染状態及び量	種類・項目	通常		最大		通常		最大	
		処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後
	pH	3.0~3.5	6.8~7.2	2.5~3.0	6.5~7.5				
	BOD (mg/L)	18	3	25	5				
	SS (mg/L)	25	5	35	8				
	窒素含有量 (mg/L)	5	2	10	3				
	りん含有量 (mg/L)	1	0.1	2	0.2				
	六価クロム (mg/L)	5	<0.005	10	<0.005				
	クロム (mg/L)	5	<0.005	10	<0.005				
シアン化合物 (mg/L)	2	<0.1	5	<0.1					
量(m ³ /日)	20	20	25	25					
残さの種類、1月間の種類別生成量及び処理方法		スラッジ(300kg/月) 産業廃棄物処理業者に処理を委託							
排出水の排出方法		排水処理施設→排水管→排水口(別添資料3参照)→水路→園部川							
その他参考となるべき事項									

- 備考 1 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排出水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。
- 2 排出水の排出方法の欄には、排水口の位置及び数並びに排出先を含め記載すること。

排水水の汚染状態及び量

工場又は事業場における施設番号		排水口			
排水水の汚染状態	種類・項目	通常	最大	通常	最大
	pH	6.8~7.2	6.5~7.5		
	BOD (mg/L)	3	6		
	COD (mg/L)	4	8		
	SS (mg/L)	5	10		
	窒素含有量 (mg/L)	2	3		
	りん含有量 (mg/L)	0.1	0.2		
	六価クロム (mg/L)	<0.005	<0.005		
	クロム (mg/L)	<0.005	<0.005		
	シアン化合物 (mg/L)	<0.1	<0.1		
	ノルマルヘキサン抽出物質物質含有量 (鉱油類) (mg/L)	0.7	1.5		
	大腸菌群数 (個/cm ³)	不検出	500		
	排水水の量 (m ³ /日)	通常	最大	通常	最大
	25	30			
その他参考となるべき事項					

備考 排水水の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

(参考)
別紙4「排水水の汚染状態」に記載した項目については、汚染状態（水質）を測定、記録、保存する義務がある。

別紙5は、排水水を東京湾（東京湾に流入する河川を含む）に排出する特定事業場であって、かつ排水水量が50m³/日である場合のみ記載する。

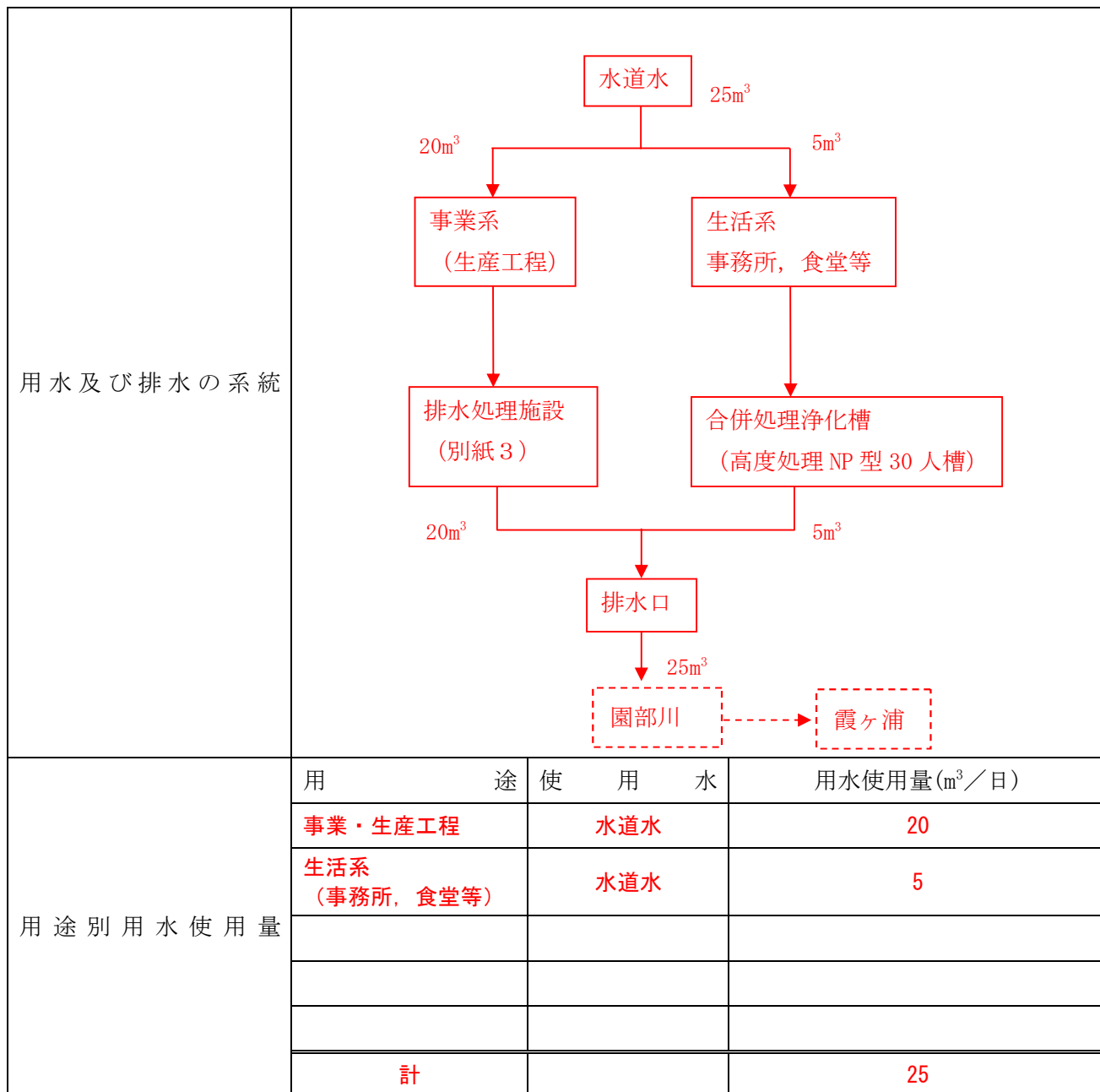
別紙5

排水水の排水系統別の汚染状態及び量

										指定項目の別				
特定排水水	業種 その他の 区分	汚染状態 (mg/l)		水 量 (m ³ /日)					汚濁負荷量 (kg/日)		※			
		通常	最大	通常	最大	Qco	Qci	Qcj	通常	最大				
				該当なし										
合 計														
特定排水水 以外の 排水水	種類及 び用途	汚染状態 (mg/l)		水 量 (m ³ /日)		汚濁負荷量 (kg/日)								
		通常	最大	通常	最大	通常	最大							
				該当なし										
合 計														
そ の 他 の 参 考 事 項														

- 備考
- 1 本紙の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。
 - 2 指定項目の別の項、汚染状態の項及び汚濁負荷量の項には、指定項目について記載すること。
 - 3 窒素含有量について記載する場合には、「Qco」を「Qno」と、「Qci」を「Qni」と読み替え、Qcjの項には記載しないこと。
 - 4 リン含有量について記載する場合には、「Qco」を「Qpo」と、「Qci」を「Qpi」と読み替え、Qcjの項には記載しないこと。
 - 5 ※印の欄には記載しないこと。

用水及び排水の系統



用途別用水量	用 途	使 用 水	用水量(m ³ /日)
	事業・生産工程	水道水	20
	生活系 (事務所, 食堂等)	水道水	5
	計		25

参 考 事 項

(項目選定のものは該当項目を○で囲むこと。)

資本金	○○○○○○○円	従業員数	全 体 1,520人 当該工場 380人
主要製品	自動車用の金属部品	操業時間	午前8時～午後7時 夏季(7～8月)は24時間操業の時期有り
用途地域	工業専用地域	敷地面積 建物面積	5,860 m ² 3,450 m ²
付近見取り図 (案内図)	下記のとおり・別添のとおり	電話番号	○○○-○○○-○○○○
担当部課長	○○部○○課長 ○○ ○○	担当者	○○部○○課 ○○ ○○
排 出 先 (該当する地域名を○で囲む)	(園部川) を経て (霞ヶ浦) に至る。		
	鹿島灘水域 常磐地先水域 県北水域 (第一種, 第二種) 久慈川水域 那珂川水域 (第一種, 第二種)	酒沼水域 桜川水域 霞ヶ浦水域 利根川水域 その他の水域	
付近見取り図 ※ 主要道路や公共施設の位置図に対して、事業所の位置が分かる見取り図を記載。別途、地図を添付してもよい。			
排水の地下浸透	○ 無 ○	有	有の場合 m ³ /日

【添付資料の記載内容】

別添資料 1-1, 2-1 構造図

※ 特定施設の構造図及び主要寸法の明記された仕様書又はカタログ等を添付する。

別添資料 1-2, 2-2 配置図

※ 事業場敷地内における特定施設が設置される建物配置図，当該建物内で特定施設が設置される部屋及び部屋内の位置の分かる図面，また配管や排水溝の位置が明記された図面等を添付する。

別添資料 1-3, 2-3 工程図

※ 特定施設を使用して製品を製造等する場合の操業系統図，フロー図を添付する。
なお，特定施設に係る用水及び排水の流出入について明記する。

別添資料 3 排水処理施設の位置図等

- ※ ① 事業場敷地内における排水処理施設が設置される位置図を明記する。
- ② 特定施設までの用水（水道水，工業用水等）の導水経路を青色で記載する。
- ③ 特定施設から排水処理施設までの汚水の経路（排水管や排水溝），及び排水処理施設から排水口（敷地境界含む）までの排水の経路についてを赤色で記載する。

別添資料 4 排水処理施設構造図

※ 排水処理施設の構造図（主要寸法を記載）・仕様書・カタログ類を添付する。

別添資料 5 処理フロー図

※ 特定施設から排水処理施設に汚水が流入してからの処理工程を記載する。処理工程は，「pH調整，中和，酸化還元，イオン交換，凝集沈殿，活性汚泥処理，散水ろ床など」をフロー図で記載し，各工程で使用される薬剤等（苛性ソーダ等のpH調整剤，硫酸ナトリウム等の還元剤など）の流出入についても記載する。

※ 添付資料は，これ以外にも適宜必要とされる資料を添付する。